

# フレッシュアップ コミュニケーション

## 東京学芸大学附属竹早中学校同窓会

〒112-0002 東京都文京区小石川 4-2-1 東京学芸大学附属竹早中学校内

同窓会会長 古谷顯史郎

# '12.6

### ご挨拶 会員の皆様へ



同窓会会長 古谷 顯史郎

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にて、ご活躍のことと存じます。

昨年起きた東日本大震災の復興も、ガレキ処理の遅れ、農業・漁業にじわじわ現れている放射能汚染問題が残る中、大雨に因る水害、竜巻に因る風害等、異常気象が続き、社会不安が増しております。

また、政治、経済の混迷も続いております。この様な変動期こそ、今一度、教育を含めこの国の在り方を考えていかなければいけないと感じております。

今年は、卒業式・入学式に出席させて頂きましたが、卒業式に於ける二年生の合唱と、二十日後の三年生として歌った入学式の合唱を比べると、入学式の合唱は最上級生としての自覚が感じられ、さすが母校の後輩だと感心しました。

今期の活動と致しましては、来年の理事改選を目指し、理事会の充実に注力し、理事会の活性化を図りたいと考えております。

今年は、三十四期の皆様のご協力を得て、新会員の期末試験を考慮した上で、同窓会総会を七月二十一日土曜日に母校多目的ホールで例年通り開催することになりました。

近年、新会員の参加が少なく気になっておりましたが、今年是非とも、多数の参加をお待ちしております。

会員一同、心より歓迎致します。

話は変わりますが、教育現場の流れとして、文科省は、世界の大学が採用する共通の大学資格取得に必要な教育課程「国際バカロレア」の認定校を今後五年間で二百校に拡大し、日本人留学生

を増やし、グローバルに対応する人材を育成する計画です。政府は昨年八月に「成長戦略実行計画」に認定校拡大を盛り込んでいます。大学の九月入学の検討、産学協同の推進等、教育の開国とも言える様な流れが出来つつあります。

また、文科省のHPに、今年四月からの新学習指導要領の全面実施に当たって、つめこみでもなく、ゆとり教育でもない「全ての子どもたちの生きる力を育む事」について、学校、教育委員会、保護者、地域の方々などに対し、理解と協力をお願いする文面が載っています。今回の要領では、基礎的・基本的な知識や技能の習得と思考力、表現力の育成と共に、主体的に学習に取り組む態度の育成を重視しています。この事は、真に母校の教育方針である「自立した生徒を育てる」の延長線上に位置するもので有ると思います。先生方を始め、学校関係者、生徒諸君のますますの発展と成長を期待し、エールを送りたいと思います。

終わりに、会員の皆様には、今後共さらなるご指導、ご支援をお願い申し上げます。

## 24年度 同窓会総会のお知らせ

○日 時／平成 24年 7月 21日(土)

午後1時半より受付開始

【第一部 総 会】午後2時から午後2時半まで

【第二部 懇親会】午後2時半から午後4時まで

○会 場／竹早中・小1階 ランチルーム

○会 費／一般 2,000円  
大・高校生 1,000円

○ご招待／現・旧教職員の方々  
新会員 63期生(平成24年卒)

○催し物／名前ビンゴ 他：豪華景品あり

※出席者全員にオリジナルグッズプレゼント

○総会担当幹事 第34期生(昭和58年卒)

○来年度担当幹事 第35期生(昭和59年卒)

第34期・35期生の方々は、お誘いあわせの上、是非ご出席ください。

ご出席・欠席を同封のがきにて、  
7月5日(木)までにご返信ください。

# 三・一一後を考え続けながら 歩みゆかねば、と思うのです

学校長 渡辺 雅之



同窓会のみなさま、小職はおかげさまで無事新任校長一年目を終えることができました。三・一一後に着任し、この未曾有の大惨事から何を学ぶことができ、被災された多くの方々への思いをどのように持ち続けることができるのか、いざ都心に大地震が起きたらどう対処しなければならぬのか、等仮想の避難訓練ではない、リアルな避難訓練を考案・実施して、生徒諸君はもとより教職員や保護者にも「三・一一後」を考え続けてもらいました。そして、日本文学者のドナルド・キーンさんの日本永住と帰化の報に接し、どれほど勇気づけられたことでしょうか。卒業式における式辞に取り入れずにはいられませんでした。

さて、この一年を振り返りまして、卓球部の顧問として技術指導をさせていたことに感謝申し上げます。自身の中学生時代には指導者がおらず、ライブ

ル校の友人がメキメキ腕を上げるのを試合ごとに実感した覚えがあります。だから、この時期に少しでも伝えたいと考え、夏休みには部史上初の合宿も敢行しました（実際にはサッカー部と陸上部の合宿に便乗したのですが）。そうした成果は、文京区内の試合や四附属戦等で例年と変わらない成績を残せたことに表れていると思っております。

また、文研の折には創竹会の喫茶「創竹庵」にてベトナム珈琲を淹れる生涯初のマスターを務めたことも印象に残る出来事でした。村山元総理からの要請でベトナムと関わって早五年、現地で馴染んだベトナム珈琲の、独特な淹れ方（まずカップ内にコンデンスミルクを入れ、専用の金属フィルターをカップに載せてお湯を落とす）を皆様に味わっていただいていたうれしかったです。ベトナム珈琲を初めて知った方も多く、本当にたくさんの方に来ていただき、用意しましたベトナム珈琲の豆2kgを全て使い切りました。創竹会の売り上げにも貢献していただいで感謝、感謝の心でいっぱいとなりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 自由研究の輝かしい成果

副校長 荒井 正剛



本校が特に誇れるものとして、自由研究が挙げられます。今では三年生全員にも課して、総合的学習の時間に組み入れ、卒業研究と呼んでいます。作品を読むのは楽しみです。私が担当する社会科の作品は一学年五〇を下らないので、読むのは一苦労です。嬉しい悲鳴です。

縁あって、こどもの文化・教育研究所主催作品コンクールに出したところ、複数の作品が受賞しました。以来、文部科学大臣賞を受賞した生徒も複数出ました。

昨年度から旺文社が社会科や理科の作品コンクールを始めたところ、数名が応募しました。その中で、中学生による社会科・理科の全作品から一人選ばれる文部科学大臣賞を三年生が理科で、また、それに次ぐ金賞を二年生が社会科で、それぞれ受賞しました。その他、社会科で二名が入選、さらに学校特別奨励賞を社

会科で本校が、それぞれ受賞しました。本校の自由研究のレベルの高さが社会的に認められたものと言えるでしょう。

今まではこうした成果を誇らしげに発表することはしませんでした。しかし、今はそれを宣伝すべき時代のような気がします。保護者アンケートで、本校の良さ・すばらしさを、ホームページや学校説明会などでもっとアピールすべきだといわれています。学校説明会を本校でも六・七年ほど前から実施しています。昨年は二回実施し、校内見学も入れました。

本校の応募者数は、残念ながら頭打ち傾向にあります。そのようななか本校卒業生のお子様を受験・入学されることがよくあります。これほど本校の良さを物語ることはありません。それを学校説明会で、自由研究に加えてアピールしていきます。

最近では三月の卒業式に一期生の方が八名参加され、四月に二期生が二〇名ほど学校にお出でになりました。中学校時代を思い出してたいへん盛り上がったそうです。皆様も文研（文化研究発表会）で生徒の自由研究作品をご覧になるなど、ぜひ学校にいらっしやう、懐かしい日々を思い出してみませんか。

## 退任挨拶

ありがとうございました

国語科 鈴木 健一

今は亡き恩師のご紹介で昭和五十二年に赴任しました。以来、通算で三十二年と六ヶ月、お世話になりました。

風情のある木造校舎、明るく元気な生徒、懐の深い保護者の皆様、そして器の大きい先輩方、たいへん恵まれた環境でした。

さらに、強制的な自由度の高い授業や研究も、のんびり屋の私にはありがたいものでした。竹早での仕事は楽しく、教員として幸せでした。

やがて校舎は新しくなり、人も過ぎていきましたが、それでも変わらない確かなものが脈々と引き継がれてきています。

そんな大好きな竹早を急に退職することになり、多くの方々にご迷惑をおかけしてしまいました。

現在は、新たな立場で教育に携わっております。与えられた仕事をしっかりとやり遂げることで、これまでに戴いたご恩に報いたいと思っております。ありがとうございました。

竹早中学校と同窓会のみまますのご発展を祈念しております。

## 平成23年度卒業式に参加して

### 喜寿が見送る卒業生

1期 小川 壽夫

われわれ一学期の有志八名は今年の卒業式に参列した。みな七七歳喜寿の面々であ

る。「第63回卒業証書授与式」と張り出されているのを見て、時間の経過に改めて感慨を覚え、聞き慣れない名称に新鮮な響きを感じた。第1回がどこで行われようという形であったか、誰も正確に思い出せない。少なくとも今の校歌は歌わなかったと思う。

一人ひとりの名が呼ばれ、壇上で証書を授与される。見てみるとそれぞれどこかしら個性が読み取れる。盛り上がったのは最後の合唱であった。在校一年生二年生の贈る歌に続いて卒業生が応えて歌う。指揮者とピアノ伴奏、役割を果たして見事だった。正直言ってわれらの孫より年下なのだが、同じ学び舎で過したという共感がその年齢差を一気に縮めてしまう。

近くで昼食を摂りながら、われわれは今日の喜びと感動を語り合った。見送るという行為が未来への参加であることをしみじみ実感できた。この歳でこの体験は貴重である。初めての試みを受け入れて下さった学校側に深く感謝申し上げる。

私事にわたるが、五月五日、オックスフォード大学卒業式を参観した。娘がリネカー・カレッジ Linacre College の博士号 DPhil を取得したからである。古色蒼然たる巨大な円筒型の講堂、内部はぐるりと四階まで人で埋め尽くされている。一階に学卒が向き合っただけと並び、院卒は正面階段席に座る。それぞれが学位を示す色のガウンを着ている。冒頭に学長が「本学は International University である」と述べたように、アジア系アフリカ系の学生も目立つ。三〇以上のカレッジ全員で四〇〇名くらいか。グループごと各人の名が読み上げられ、学長の前で祝福を受ける。このあたりはラテン語のようだ。オープンな組織、

フリーな学風で知られているが、伝統的儀式は厳粛に進められていく。ふと、附中卒業生の誰かがこの中に入ることもあるだろうな、と思つて楽しくなった。

## 平成23年度同窓会総会報告

33期幹事 平田 敦

平成23年7月9日(土)、ランチルームにて平成23年度同窓会総会・懇親会を開催しました。幹事は来年度に卒業30周年を迎える33期。同窓会役員や各組幹事12名で幹事会を結成し、東日本大地震直後の3月14日から6回のミーティングを重ねて準備に取り組みました。

関東地方では平年より12日早い梅雨明けを迎えた当日は夏空。厳しい暑さとなりましたが、小菅理事の開会の辞で始まった総会は、古谷会長挨拶の後、役員改選などの議事を滞りなく終え、ほどなく閉会となりました。

続いている懇親会では、渡辺雅之校長と荒井正剛副校長からご挨拶をいただいたあと、一つめの企画として、33期の染野憲治さん(東京財団研究員兼政策プロデューサー)による講演「3・11後の日本」が行

なわれました。震災の甚大さを端緒に、電力消費の推移など日本がたどってきた道程と現状をまとめ、グローバルな視点で日本と中国を比較しながら、今後の日本の在り方について提言がなされました。二つめの企画は、オペラ歌手として活躍する33期の三角枝里佳さんと小森輝彦さんによるミニコンサート。30分間にわたり二人のすばらしい歌を堪能し、最後は全員で「ふるさと」を合唱してしめくりました。

同窓会理事会の意向により献杯を捧げることからスタートとなった会食では、50期の医師・花大洵さん(東京女子医科大学東医療センター)から被災地での支援活動の報告もなされました。短い時間でしたが、ごやかに歓談し、全員で校歌を斉唱して会はお開きとなりました。

参加総数は121名であり、33期がお世話になった田神まさこ先生、小関高明先生、竹内博先生をはじめ、元校長の木村茂光先生にご出席いただきました。余談ですが、終了後の33期同期会では先生を含め67名が集まって旧交を温め、またとない盛会となりました。貴重なきっかけをいただきました同窓会にはこの場をかりて感謝申し上げます。



# 体も心も健やかに

自分探しの20代、無我夢中の30代。そして今、私達は、仕事や家族、地域活動など、たくさんを抱える40代半ばを迎えています。そんな34期が、自らを振り返り仲間にも伝えたいと思うのは、「心も体も大切に暮らし」です。

## 「マクロビオテック」を知っていますか

フードコーディネーター 田中 尚巳

「マクロビオテック」——マドンナら海外のセレブが紹介して流行ったという食事法——これが実は日本が発信元であることをご存知でしたか？ 最近では日本でも認知度が上がり、スポーツ選手など持久力が必要な人達に特に注目されています。

マクロビオテック(以下マクロ)とは、玄米と野菜を中心に、旬の食物をバランス良く組み合わせた穀物菜食の健康法です。しかし必ずしも肉・魚類を禁止しているわけではありません。要は、バランス良く食べましょう」ということ

なのです。ほかにも、化学調味料や保存料に頼らない調理法、地産地消、有機や無農薬を重視した素材選びなども大切にしています。

「私達の体は自分達の食べている物でできている」。マクロを習い始めた私の心に深く響いた先生の言葉です。いわく、体の調子を悪くするのも良くするのも、ひいてはその体に宿る心を健全にするのも、全ては食べた物が多分に影響する、ということなのです。またマクロは日本古来の食生活を見直そうという発想でもありません。昔の人は玄米や野菜が

中心のおかずを食べ、発酵食品であるお味噌汁を摂り、たんぱく質は豆類から摂っていました。卵やお肉、牛乳などは、ハレの日だけにしか食べなかつたはず。それが、戦後、日本人の食生活の欧米化により常食となり、昔は少なかつた成人病や癌も増えていったのです。

私は出産を機に、このマクロに興味を抱くようになりました。低血糖症に悩んでいたこともあり、親子で安心して食べられる食事法を模索していたのです。外資系銀行に勤めていた当時は、疲れで血糖値が下がると手が震え、極端に甘

い物を口にするので凌いでいました。そして決まってその後、冷えや倦怠感を覚えていたのです。マクロの実践を始めて何よりも変化を感じたのは、子供が風邪をひいても回復が早くなったこと。そして自身の低血糖症も治ったことです。体重も半年で7キロ弱減りました。思えばこれは、上白糖の摂取をやめたことが最大の要因だったようです。



以前はよかれと思いい、キビ砂糖（未精製の上白糖）を使用していました。ですが上白糖には血糖値を急激に上げ下げする性質があります。マクロで推奨している米飴やメープルシロップ、甜菜糖など、穀物の甘みを生かした甘味料であれば、摂取時に穏やかに血糖値を上げ、下がる時も急激には下がりにせん。

こうした食物の性質は、その原料が育つ地域とも密接に関わっています。上白糖の原料はサトウキビ。つまり温暖な地方の産物なので、体を冷やす性質を持っています。タイなど熱帯地方のスイーツが極端に甘いのは、あの地方に必要な甘さなのです。逆に熱帯でない地域でこれを多量に摂取し体温が必要以上に下がれば、当然内臓の働きも悪くなり、疲れやすくなります。地産地消がいかに大事か。なるべく自分の住んでいる気候、風土に近い物を選ぶことは、健全な体づくりに何よりも大切なのです。

いろいろ書き並べてきましたが、そうは言っても食事は娯楽の一つ。制限がストレスにつながるは本末転倒です。すぐにできる手段としては、まず旬の野菜を選ぶこと。何よりも食物のエネルギーが最大であり、体も喜ぶ結果となりますはずです。第二にバランスを考えること。全粒穀物を全体の約半分、旬の有機野菜や豆類・海藻を中心におかずを3（

4割、果物・スイーツは1割程度。体に負担の多い動物性食物は月数回程度。例えばお肉を食べたらその3〜4倍の野菜、6倍の穀物を摂ると考えればよいのです。

私は今、マクロを楽しみむホームパーティをプロデュースするお仕事をしています。ワインに合うテイストにアレンジしてあることや、ポリウムに満足される方が多く、働き盛りの男性にも好評です。

皆様も身近なことからのマクロを取り入れてみませんか。きっと身体がその意味を正直に教えてくれると思います。

## 寄り添って生きることのすすめ

虎の門龍醫院 副院長 龍 庸之助

竹早中学校を卒業してもう30年。自分が中学生だった時とは随分世の中の状況は変わりました。中学卒業後、私は付属高校を経て大学の医学部に入學し6年間をかけて医師の資格を得、その後は精神神経科の医師を自らの生業として選択し現在に至っています。医師になってからも、もう既に20年。そう考えるとあつと

いう間の30年でした。今回、竹早中学校の同窓会誌『フレッ

シユアツプ』に寄稿するという恐れ多い大役を引き受けてしまったわけですが、これも何かの巡り合わせと思いい、私が精神科の臨床医として患者様と接する中で感じたことから、私達が「より良く生きるために必要なことは何か？」ということについて私なりの考えを書こうと思いいます。

私は新人の頃は総合病院、精神科病院などで仕事をしてきましたが、現在は父



ある日のホームパーティ  
<http://haitianmoon.com/>



(79歳)の開業する神経科診療所と、金融機関の健康管理室で非常勤の産業医として週1回診療をしています。診療以外でも、港区と江戸川区、江東区の保健所からの依頼をうけて、相談業務や社会復帰プログラム(デイケア)の担当医をやっています。精神科医が臨床医として経験することのできる職場は概ね経験してきました。精神科の診療では、もちろん患者様の話を聞いて診察をし、必要に応じて検査も行って、くすりを処方します。

ですが、それだけでは不十分なことも多く、患者様やそのご家族、働いている方なら上司の方や、学生さんなら先生などとも話し合い、当事者たる患者様にも自らの状態を把握できるように促した上で、いかに社会復帰するかを考える、大げさに言ってしまうえば「患者様の病気のみならず生活全般に関わり、その方の人生に寄り添い、その方の周りの環境すべてをより良くすることを考える仕事」という意気込みで毎日診療をしております。

日々の臨床の中で感じるのは、権利意識が強く自己中心の人が増えたということです。残念なことに患者様ご本人よりも、その支えとなるべき健康(?)な方の中に「〜してもらえないはずだ」「私は忙しいので無理だ」「本人が怠けているのだから自業自得だ」「私は関係ない」というような表現をされる方があります。ある意味、依存的な姿勢とも言えますが、病気を抱えてしまった人に対して無関心

で、病状を理解し一緒に生きていくという姿勢には欠けています。

この10年以上の間、日本人の自殺者の数は年間約3万人以上で減ることを知らず、30年前に比べ、約1万人増えました。これは確かに高齢化のため、身体疾患で悩む人が増えたり、介護による家族の負担が大きくなったことや、日常のストレスが大きくなったこと、金儲け主義的な生活が影響しているかもしれません。でも、昨年東北大地震に見舞われた宮城県と岩手県では、自殺者の数が大きく前年を下回りました。被災者のもとに多くのボランティアの方が生活の支援に訪れ、寄り添い温かい言葉をかける。そんな「絆」という言葉に代表されるような人と人との関わりが影響したのだと私は考えたい。

ならば、今のこの閉塞感に満ちた先の見えない不透明な世の中で、より良く生きるということは、お互いに自分の周りで暮らす人たちが健康に生きられるよう関わることといえるのではないのでしょうか。「学業成績の不振」「能力を超えた仕事」「家庭や子育ての負担の増加」「慢性的な身体の不調」。人は色々なことで悩みます。そんな時、それに気づいた人たちが、当事者の方に寄り添って生きようとする姿勢を見せた時、悩みは減るのだと思います。誰もが自分だけではなく、互いの為に真の優しさを示すべき時代なのです。

## 名簿部より

・友人の空欄(消息不明)をお知らせいただける時

※ご本人が公表拒否を希望されている場合は同窓会への管理となります。

連絡先：T112-0002

東京都小石川4-2-1

東京学芸大学附属竹早中学校

同窓会名簿部 白石英行宛

E-MAIL burkyo@mail.ne.jp

※同窓会名簿の最後に葉書を折り込みましたのでご利用下さい。

④デジタルデータ更新は年2回(3月・9月)行います。

### ◆最新情報の提供について

同期会開催の必要に応じて各年次委員に限定し提供致しますので、右記の名簿部白石英行までお問い合わせ下さい。

### 一 同窓会会員名簿 2011

「会員名簿2011(第1期)第62期生収録」は昨年7月に刊行されました。

会員名簿は2003年以降、四年毎の間隔で発行してきました。今後については個人情報保護の観点から名簿制作上クリア困難な制約が発行に影響を及ぼすため、今回の発行が最後となることもありと懸念するところですが、未購入の方は、この機会をお見逃しなく、ぜひ、お申し込みください。

■ご購入は、同封の「払込取扱票」にて、3000円(送料込み)を払い込みお申し込みください。

※7/21(土) 同窓会総会当日、会場においてもご購入できます。



会員名簿 2011  
(番号入り)  
B5判 並製 392頁  
頒価  
3,000円(送料込み)

- ◆2011年版同窓会名簿の販売について  
多数の同窓生にご購入賜り、発送業務が遅れました事、お詫び申し上げます。また今後とも、ご希望の方に販売を致しますので、同封の振り込み用紙にて、維持会費2000円+名簿購入費(送料込み)＝5000円のご入金をお願い致します。
- ※お申し込み後、お届けまでに約2ヶ月かかります。
- ◆フレッシュアップ発送業者の変更  
この度のフレッシュアップより、お届けする業者をJPBizメール便に変更し、郵便局で移転手続きをされた方には、移転先へ届くように致しました。
- 同窓会へ移転手続きがされていない方は、この機会に是非、左記の同窓会データ更新手続きをお願い致します。
- ◆デジタルデータ更新について  
①「竹早中学校同窓会個人情報に関するガイドライン」及び「竹早中学校同窓会個人情報保護基本方針」を遵守し、管理致します。
- ②同窓会誌「フレッシュアップ」発行時の同窓会総会返信葉書にて、毎年調査を行い、変更事項について更新致します。
- ③随時、郵送又はメールにてデータ提供をいただいた場合、更新致します。
- ・自分の住所等の変更があった時

・2011年版名簿に記載誤りがある時

## 平成24年度 予算案

(自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日)

収入の部 (円)		収入の部 (円)	
<b>I 前年度繰越</b>	<b>9,969,986</b>	<b>Ⅲ 本年度支出</b>	<b>3,230,000</b>
【内 訳】		【内 訳】	
定期預金	3,000,000	同窓会会報発行費(1)	1,310,000
普通預金	23,301	総会・懇親会開催費	500,000
郵便貯金	6,519,622	常務理事会費	40,000
小口現金	427,063	総務費	50,000
		文書事務費	100,000
		郵便連絡費	300,000
		慶弔費	90,000
<b>Ⅱ 本年度収入</b>	<b>3,162,000</b>	卒業記念品代	140,000
【内 訳】		クラブ活動援助金	400,000
新入会員会費	1,650,000	名簿入力・追録費	100,000
同窓会活動支援寄付金		ホームページ作成・維持費	
	500,000		200,000
維持会費	800,000		
総会・懇親会会費	90,000	差引残高	9,901,986
預金利息	2,000	<b>Ⅳ 次年度繰越</b>	<b>9,901,986</b>
名簿売上	120,000	【内 訳】	
		定期預金	3,000,000
		普通預金	800,000
		郵便貯金	6,000,000
		小口現金	101,986
<b>合計</b>	<b>13,131,986</b>	<b>合計</b>	<b>13,131,986</b>

## 平成23年度 会計報告

(自平成23年4月1日  
至平成24年3月31日)

収入の部 (円)		収入の部 (円)	
<b>I 前年度繰越</b>	<b>9,469,120</b>	<b>Ⅲ 本年度支出</b>	<b>5,892,842</b>
【内 訳】		【内 訳】	
定期預金	3,000,000	同窓会会報発行費(1)	1,302,000
普通預金	1,528,194	総会・懇親会開催費	405,402
郵便貯金	4,798,329	常務理事会費	24,997
小口現金	142,597	総務費	25,500
		文書事務費	105,459
		郵便連絡費	381,855
		慶弔費	30,000
<b>Ⅱ 本年度収入</b>	<b>6,393,688</b>	卒業記念品代	138,000
【内 訳】		クラブ活動援助金	400,000
新入会員会費	1,580,000	名簿入力・追録費	60,522
同窓会活動支援寄付金		ホームページ作成・維持費	
	1,342,000		166,950
維持会費	2,038,000	名簿作成・注文書作成発送	
総会・懇親会会費	198,000		2,852,157
預金利息	2,688	差引残高	9,969,966
名簿売上	1,233,000	<b>Ⅳ 次年度繰越</b>	<b>9,969,966</b>
		【内 訳】	
		定期預金	3,000,000
		普通預金	23,301
		郵便貯金	6,519,622
		小口現金	427,043
<b>合計</b>	<b>15,862,808</b>	<b>合計</b>	<b>15,862,808</b>

注：(1)送料を含む

在校生の保護者の皆様を正会員とし、同窓会の皆様、正会員OB並びに転任・退職された先生方を賛助会員として、平成23年度の実績では27百万円の会費・寄付を頂き教育活動、並びに教育研究活動補助金として母校に提供し、教育環境の維持・向上に貢献しております。

必要な教材を整え、校内設備を整備して、附属中学校に相応しい教育環境を維持してゆくためには、中学校の財政面の充実が欠かせませんが、一方で、国家からの経済面での支援は、今後、肥大化する社会保障の費用や、震災復旧などのために更に先細りすることが予想されま

### 創竹会からのご挨拶



創竹会会長  
子安 龍太郎

同窓会会員の皆様には平素より竹早中学校教育後援会、創竹会の活動にご理解とご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。昨年の東日本大震災に引き続き、天変地異の連続ですが、被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

創竹会は国立大学の法人化に伴い、附属中学校への国からの予算が減少する中で、教育環境を維持してゆく為の仕組みとして2001年1月に発足し、11年目を迎えております。

創竹会の役割は、一層重要性を増すものとなりますので、同窓会の皆様のこれまで以上のご理解と財政面でのご支援を心よりお願い申し上げます。

### 第1回 竹早小学校・中学校 同窓会理事懇親会報告

平成24年5月9日に、初のこころみとして竹早小学校と中学校の同窓会理事会の懇親会が行われました。同じ敷地の中で学校生活を送りながら、同窓会間の交流がほとんどなかったことが不思議なくらいです。当日は、小学校側の理事より会の趣旨説明があり、乾杯の後とても和やかな時間を過ごすことができました。そして、お互いの日頃の活動内容を共有すると同時に、将来的な共同事業の可能性にまで話が弾みました。最後に、矢澤小学校会長と古谷中学校会長がかたい握手を交わし、今後ともこのような懇親会を通して、継続的な関係強化を図ることを約束して閉会となりました。



## 平成23年度同窓会活動状況報告

4月8日(金) 入学式出席 古谷会長

祝い金1万円

5月27日(金) 先生方との懇親会

於 ホテルメトロポリタン

エドモントフォーグレイン

7月9日(土) 同窓会総会・懇親会

於 竹早小・中学校ラン

チルム

9月17日(土) 第1回常務理事会

名簿編集について

9月24日(土) 運動会出席 古谷会長

祝い金1万円

12月3日(土) 第2回常務理事会

名簿販売について、同窓

会総会の報告と次回予定、

新年会について

1月27日(金) 新年会・同窓会総会担当

幹事(第33期)慰労会

於 リバーサイドカフェ

シエロイリオ

3月17日(土) 卒業生記念品(マグカップ)

贈呈式出席 小菅・白江

理事

3月18日(日) 卒業式出席 古谷会長

祝い金1万円

## 同窓会常務理事会名簿

顧問 田中 元次(2期竹)

二瓶 好正(7期)  
監事 高柳 良夫(3期竹)

会長 古谷顯史郎(13期)

副会長 三嶋 明(13期)

総務部 松岡 隆司(14期)

高島 正子(7期)

白江 千治(26期)

事業部 高柳 良夫(3期竹)

三嶋 明(13期)

田中 充(29期)

広報部 小菅 昭彦(27期)

田上 睦美(33期)

野島 雅(41期)

名簿部 花見喜久子(13期)

白石 英行(31期)

関根あすか(36期)

会計部 正野 敬子(19期)

永井真知子(19期)

石黒由香里(26期)

## 常務理事 選出のお願い

同窓会理事会は、常務理事の募集をしております。理事会名簿でもご覧頂ける様に、様々な年代の方々が、色々な部会で、活躍しております。

同窓生が一番の宝は、「共に学んだ友」と「帰って来られる母校」の二つです。同窓による一種の共通の価値観を持っていると思われる様々な年代、キャリアの方々との語らいは、刺激的で且つ興味深く、是非同窓会の活動にご参加下さい。

新しい事に一歩踏み込まれてはいいかがですか?ご参加を、いつでもお待ちしております。

## 母校PTA 文化厚生部からお願い

例年行われている制服等のリサイクルを、今年度は左記の要領で行います。ぜひご協力下さい。

○現行の制服(男女とも)、Yシャツ、ブラウス、ネクタイ、リボン、ベストなど。

○運動会(9/29)、同窓会総文研(11/2・3)も受け付けます。運動会では下校庭へ行く階段下に回収箱を設置します。

○竹早中学校事務室あての郵送・宅配でもお願いいたします。

## 会計部より

同窓会維持会費をすでに複数年お納め頂いている方が多数いらっしゃいます。事務処理上その方々にも会費納入書が一括して発送されてしまいます。誤って納入された場合は、会計部までお申し出下さい。

## 維持会費・同窓会支援 寄付金ご協力をお願い

同窓会経費は、入会金、維持会費、同窓会支援寄付金その他の収入金をもってこれにあてます。(同窓会会則22条) 23年

## 編集後記

早いもので東日本大震災から1年以上が経ちました。その間、震災を契機として日本全体が改めて「絆」の大切さを認識したような気がします。この3月に久しぶりに雑司ヶ谷の鬼子母神を訪れた折、鬼子母神堂をおまつりしている竹早中学の同級生の家を訪れました。

広大な境内は、そこだけ時間の流れが止まったかのようなゆったりとした空気が漂っていました。おいしい料理をご馳走になりながら、何年かぶりに再会した同級生と昔話に花が咲き、とても気持ちの良い時間を過ごすことができました。そんな心地よさに日頃の疲れを癒されながら、改めて竹早で生まれた「絆」を実感することができました。(小菅)

同窓会ホームページをご利用ください。  
<http://www.takenaya-jhs-dousoukai.net/>